

# 子宮摘出術後の腹腔内膿瘍発生リスク因子とその感染制御に関する検討

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年 3月 24日 ～ 2024年 3月 31日

**〔研究課題〕** 子宮摘出術後の腹腔内膿瘍発生リスク因子とその感染制御に関する検討

## 〔研究目的〕

子宮摘出後、稀に腹腔内膿瘍形成をみて治療に難渋することがあります。患者背景も多岐に渡りますが、子宮摘出術の方法も様々であり、術後膿瘍形成に関する詳細な検討はされていません。手術予後改善のために術後膿瘍形成を呈するリスク因子の解析を目的とします。

## 〔研究意義〕

それぞれの患者背景ならびに手術様式毎の膿瘍形成リスク因子を解析することで、術後感染制御の一役となることを期待します。

## 〔対象・研究方法〕

2021年4月～2022年3月に当院で子宮全摘術を施行した152例を対象とします。検討項目は患者背景(年齢・経妊経産・基礎疾患)、手術内容(術式・出血量・手術時間)、術後経過(術後CRP・WBC値、検出菌)とします。術後抗菌薬をセフメタゾールに変更した症例の感染制御の検討も行います。解析は $\chi^2$ 検定・wilcoxon検定を用います。

## 〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター 産婦人科

## 〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など患者さん個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんが特定できる個人情報は利用しません。患者さんからご自身の情報開示等の請求は個々に対応いたします。また、研究終了後にデータセット等を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年保管後に廃棄いたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 問 い 合 わ せ 先

研究責任者：馬場 聡 職名 帝京大学ちば総合医療センター産婦人科・助教  
所属：帝京大学ちば総合医療センター  
住所：市原市姉崎 3426-3 TEL：0436-62-1211 (代表) [内線 5108]